



WITNESS

刑事

# 白撃者

ハリソン・フォード

大都会からやって来たタフな敏腕警部

守ってやりたい

この少年、この美しき女。

生き方も愛し方も違う二つの世界の男と女が出会った。そして……

ひと

ケリー・マクギリス ルーカス・ハース アレキサンダー・ゴドノフ  
監督 ピーター・ウエアー / 製作 エドワード・S・フェルドマン / 脚本 アル・W・ウオレス / ウィリアム・ケリー / 音楽 モーリス・シヤール  
DOLBY STEREO  
FM 123 上巻 1 - 1 録音 1 録音 1 録音 1

監督=ピーター・ウェア  
脚本=アール・W・ウォレス/ウィリアム・ケリー  
音楽=モーリス・ジャール

# 刑事ジョン・ブック 目撃者

いま、話題の  
アーミッシュが初めて  
スクリーンに登場!

## ■アーミッシュとは—

アーミッシュ（アンマン派信徒）は、ヨーロッパに於いて大々的な宗教迫害が行われた頃で、第2波は1815年から1865年にかけておこった。彼等はスイス・アナバプティスト派の直系の子孫で、この宗派は16世紀にスイスを中心に生まれた。

アーミッシュは伝統的に農民で、広大な土地を持つアメリカという新大陸に希望を託し移住。自給自足のコミュニティをペンシルバニア州（この為、彼等を“ペンシルバニア・ダッチ”とも呼ぶ）を中心に作り、外界との接触を断った生活基盤を築いていった。

彼等の規則は厳格で、例えば、彼等の男子はアメリカ合衆国及びいかなる国の軍隊にも入隊してはならず、結婚した男子はアゴひげを必要とされ、髪は長くのばし、その長さが半ばになるまで剃っても、刈ってもならない。また、結婚後の出産コントロールは禁じられていて、大家族を容認している。

生活様式はほとんど近代化に抵抗していると言ってもよく、彼等の誰ひとりとして、ラジオもテレビも電話も、セントラル・ヒーティング設備も、自動車も持っていない。農耕に際しては、トラクターよりも馬を好み、昔ながらの自然な肥料を使用している。服装は地味で機能的な1700年代のヨーロッパの農民が着ていたものを元にして、今日でも着用している。そして、原則的に彼等は税金は納めるが、選挙の投票はめったにしない。

今日、こうしたアーミッシュの規則は地域（現在アーミッシュは全米20州にわたって分散している）によって、多少違いはあるが、約8万人のアーミッシュの間で受け継がれ続けている。

## 男は大都会の 敏腕刑事——



## ■ピーター・ウェア監督は語る—

オーストラリア出身のウェア監督が、この映画を手掛けることを決意した大きな要因は、アーミッシュ社会を描く機会を持つことであった。彼は次のように言っている。

「300年前、米国に初めて渡って来て、野を耕し、考えを巡らした人々と、ほぼ同様の生活をしている人達がこの地におり、今でも変わっていないという事実が私の興味をそそった。彼等がどのように生き延びているか、それは確かに心を惹きつける。普通と違う時間感覚を得られることは滅多にない。アーミッシュはいわば白人の民族社会で、宗教は彼等にとって文化であり、それは日曜日ごとに教会に行くといった類いのものではない。私はまた、この映画の撮影で、この国に移住者が訪れたのがどれほど近い過去の出来事であったのかという歴史的認識を、アーミッシュの人々に改めて再確認させられた。彼等がアメリカ人を今だに“イギリス人”と呼んでいる事実がそれを証明している。彼等は時計をあまりにも遅らせているので、彼等にとって、アメリカ人とは今なお赤いコート（独立戦争時の英国兵の赤服）を着て歩き回っているのだ。この途轍もないタイムスリップは、1985年の“メディア時代”にとって、映画にドラマにうってつけの題材といえる。以前、それが試みられていないことに私は驚いている」

## 女は恋を禁じられた アーミッシュ——



## ■ヒロインのケリー・マクギリスはアーミッシュ？

レイチェル役のケリー・マクギリスは、アーミッシュの未亡人を演じるために、独自の役作りをした。アーミッシュに関する書物を読んだり、ドキュメンタリー・フィルムを見たりした他に、数日間、本物のアーミッシュの家族と生活を共にし、彼等の農場での日課を観察したり、自らそれを行って見たりした。しかし、地元の新聞が写真入りで彼女の映画出演を報道したため、滞在先の家族が不当な宣伝やアーミッシュ教会からのプレッシャーにさらされるのを心配したマクギリスは、直ちに農場をあとにした。

## 小さな目撃者が 二人を 結びつけた……。

